

今宿野外活動センターリニューアルについて

1. 報告の趣旨

- 今宿野外活動センター（以下「センター」という。）は、野外活動、自然教育等を行う施設として昭和47年に開設され、50年が経過している。
- センターは老朽化が進むなど課題を抱える一方で、良好なアクセスや周辺自然環境など、身近で市民が野外活動を行える魅力を持っており、「Fukuoka Green Next」では「遊びの森ゾーン」の活動拠点に位置付けられている。
- これらの状況を踏まえ、リニューアルを検討しており、検討状況および民間サウンディングの結果を報告するもの。

2. センターの概要

- ・所在地 福岡市西区今宿上ノ原 217-2
(玄海国立公園内)
- ・供用開始 昭和47年11月
- ・敷地面積 約33ha (うち利用面積 約9ha)



3. センターの魅力・課題

【センターの魅力】

- ◆博多湾を見下ろすロケーション
- ◆市街地からの容易なアクセス
- ◆水遊びができる敷地内の七寺川
- ◆近接する叶岳・高祖山登山口



博多湾が望める立地



七寺川での川遊び

【センターの課題】

- ◆施設の老朽化(築50年が経過)
- ◆大人数仕様の宿泊施設
- ◆宿泊者数の減少(ピーク時から大きく減少)
- ◆低額な使用料収入(指定管理料の約1%)



外壁の剥離



大人数向けのロッジ

市民が気軽に自然を楽しむ場としての魅力は持つものの、施設の老朽化や利用形態の変化等に対応できておらず、財政負担も生じており、センターのリニューアルや運営方法の見直しが必要。

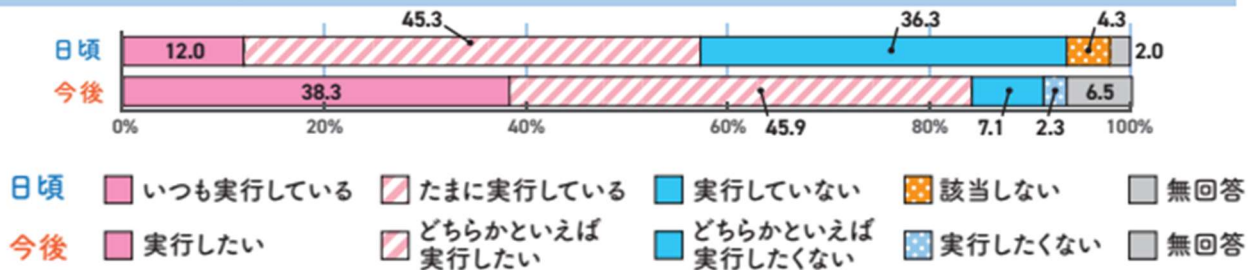
4. センターを取り巻く環境

(1) 市民ニーズ

市民の身近な自然体験へのニーズは高く、潜在的ニーズも存在している。

(参考資料：R4年度 市政に関する意識調査)

海、山、川などに行き、身近な自然を体験する



(2) 社会の動向

- コロナ禍により、身近な環境や地域の自然資源の重要性が認識され、運動不足の解消やストレスの緩和といった効果も得られるオープンスペースの重要性が再認識された。

(新型コロナ危機を契機としたまちづくりの

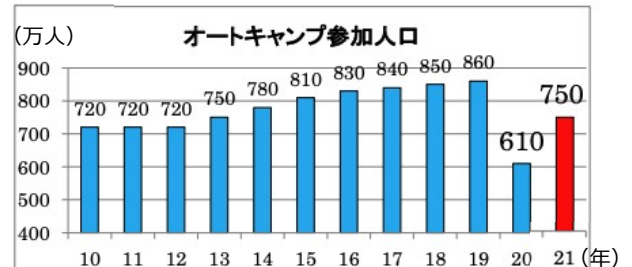
方向性(論点整理)より(R2年8月・国土交通省))



- キャンプ人口は増加傾向にあり、コロナ禍により減少したものの、令和3年度は回復傾向にある。

(オートキャンプ白書 2022

(一般社団法人日本オートキャンプ協会)より)



(3) 地域資源

センターでの連携が期待できる農水産物や地域行事などがある。

- 今宿やその周辺の地産品

ぶどう	ほうれんそう	すいか	牡蠣

- 周辺イベント

今宿納涼花火大会	叶嶽神社大祭

5. 民間サウンディングについて

(1) 民間サウンディングの実施概要

民間サウンディングを実施し、民間事業者の参画可能性や施設の活用イメージなどについて意見交換を行った。

○実施期間

令和5年9月下旬～11月上旬

○参加事業者数

提案提出および個別対話 5社（グループ）

（アウトドア関連事業者、土木工事関連事業者、イベント関連事業者 など）

(2) 主な提案・意見の概要

ヒアリング項目	提案・意見の概要
事業コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境を活用した自然体験の実現 ・幅広い年齢層が楽しめるように企画やイベントを実施 ・自然体験を通じた学びの場とする
施設の活用イメージ	<p>【全体の活用イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア、キャンプを主とした、自然体験や企業研修等を実施したい。 <p>【自然体験機能の実施イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察や七寺川の活用、農園、山林の維持保全につながる企画 <p>【宿泊機能の実施イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テントサイトの拡大、ロッジ宿泊やグランピング等を行えば、企業等の団体活用も期待できる。 <p>【地域連携機能のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業、商店、生産者等によるマルシェ、地産品販売、ジビエの提供を実施することにより、センターの魅力が向上する。 <p>【既存施設の利活用イメージ】</p> <p>セントラルロッジ：飲食、物販、ワークスペース施設としても活用できる。 ミーティングホール：アクティビティ、企業研修等の場として活用可能 撤去のうえテントサイトとして使用したい。 ファミリーロッジ：宿泊や会議スペース等としても使用可能</p>
事業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・投資回収期間として 10～20年程度は必要。
事業スキーム等	<p>多くの事業者が下記のとおり意見であった。</p> <p>【事業スキーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計・建設・運営を包括的に民間事業者が担う <p>【役割分担（業務）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム方式（共同事業体の構成企業で業務を分割） <p>【費用負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市：インフラや老朽化対策、解体 ・事業者：セントラルロッジの内装、自由提案事業
その他	<p>【収益の還元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林や登山道の整備等に還元したい。

6. リニューアルの方向性について

○センターを取り巻く環境や民間サウンディングでの意見を踏まえ、リニューアルの方向性などについて検討。

(1) リニューアルの方向性 (案)

現状の豊かな自然を活かし、誰もが気軽に宿泊や日帰りで利用し、野外活動や自然教育等を通じて、市民の心身の健全な発達と豊かで潤いのある生活の形成に寄与する施設

(2) 求められる機能 (案)

機能1 自然体験機能

豊かな自然環境を活かし、誰もが気軽に自然体験や野外活動ができる機会やきっかけを提供

- ・自然体験プログラム
- ・自由広場の利用
- ・デイキャンプ



機能2 宿泊機能

民間のノウハウや創意工夫により、ニーズに対応した、より質の高いサービスを提供

- ・テントサイト
- ・電源付サイト



機能3 地域連携機能

センターの魅力向上に向け、周辺地域資源を取り込む

- ・地産品の提供
- ・イベントの開催



7. スケジュール (案)

○事業手法や事業期間等について検討を進め、令和6年度の民間事業者公募に向けて取り組んでいく。

